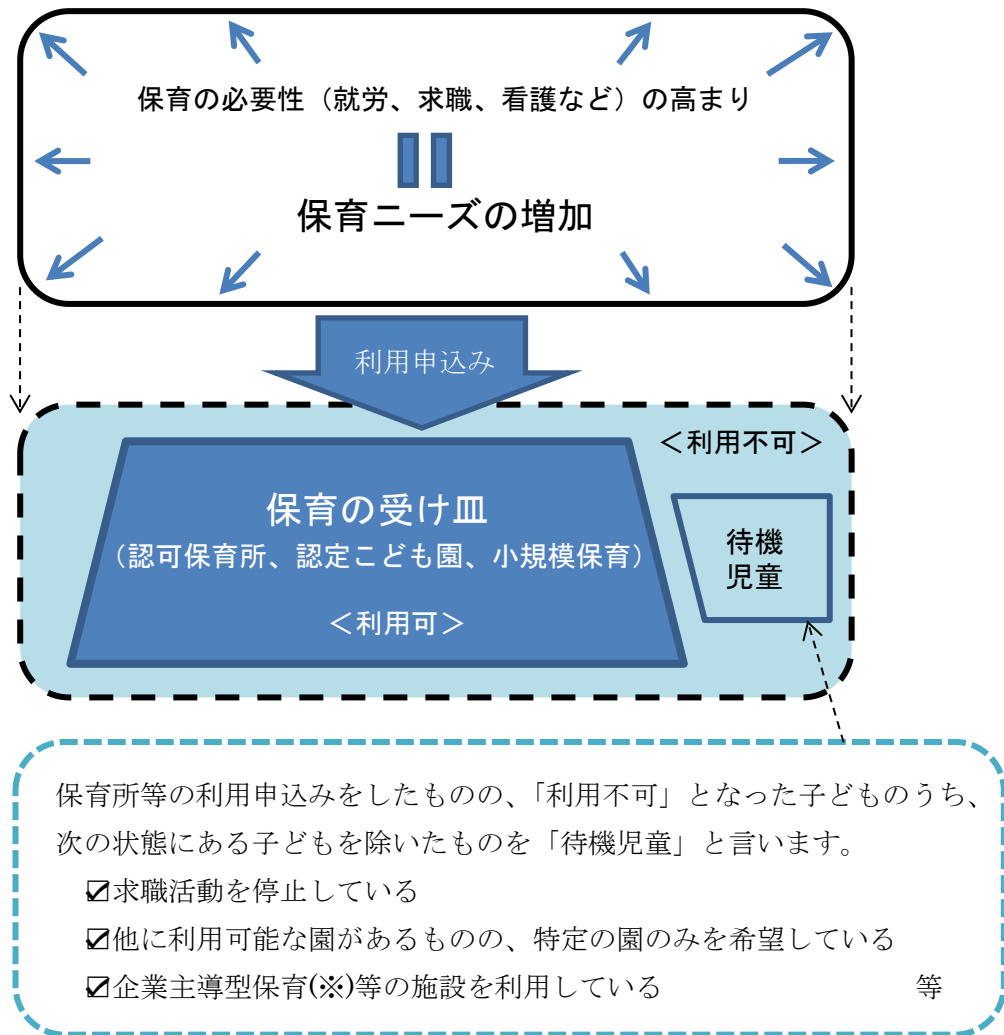


小田原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

1 本市の保育ニーズと待機児童

子育てや子どもの育ちをめぐる環境の変化を背景に、市ではこれまでも子どもと子育て世帯のニーズを踏まえながら必要な支援の充実を図ってきました。

近年では、女性の就労ニーズの高まりを背景に、特に、1・2歳の低年齢児を中心とした保育ニーズが増加する中、「待機児童」対策が喫緊の課題となっており、その解消に向けて様々な取組みを進めています。



※企業主導型保育…一定基準を超えて整備された企業の従業員向けの保育施設に対して、施設整備や運営費の補助がなされる制度。平成 28 年度に国が制度化した。

※小田原市の保育所等の申込者数と待機児童の推移

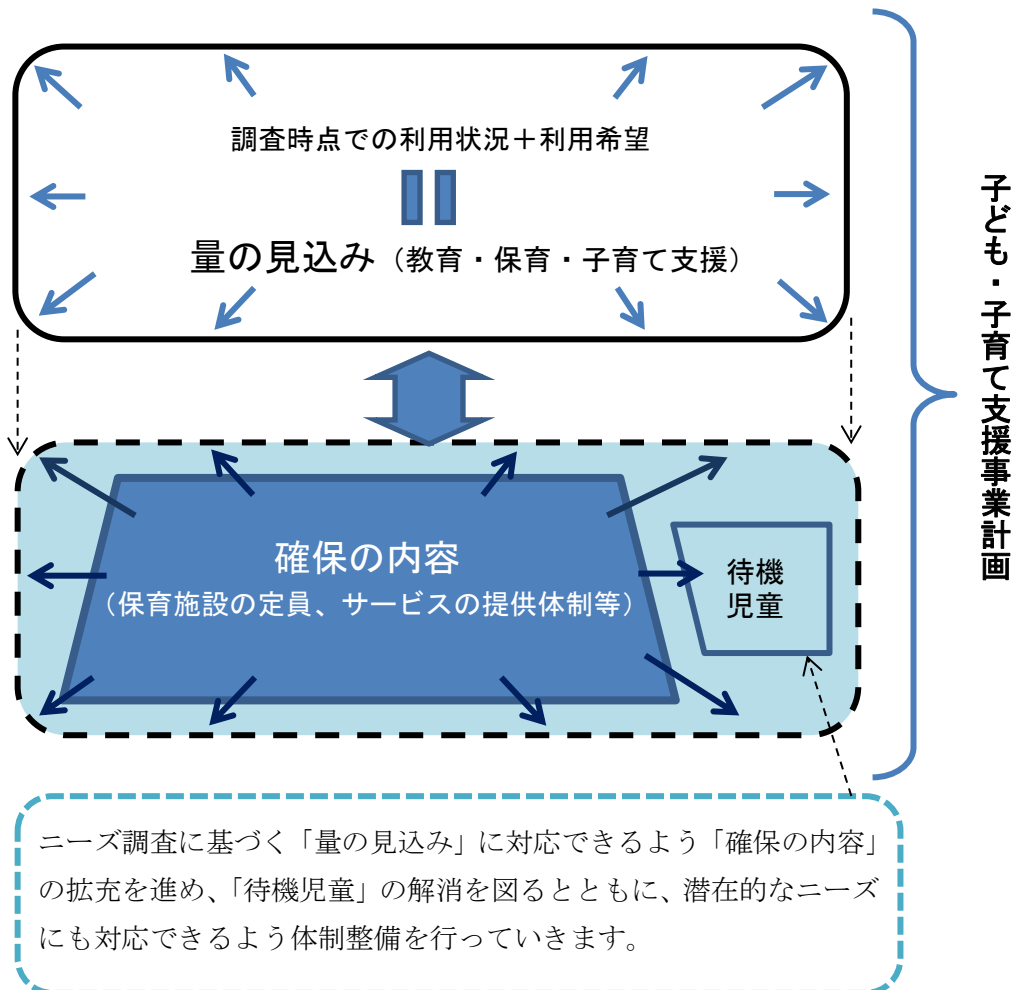
	H. 27	H. 28	H. 29	H. 30	H. 31	R. 2	R. 3	R. 4
申込者数	3,256 人	3,316 人	3,404 人	3,425 人	3,432 人	3,464 人	3,443 人	3,412 人
待機児童数	16 人	22 人	24 人	17 人	11 人	14 人	5 人	6 人

(各年 4 月 1 日時点)

2 子ども・子育て支援事業計画

保育ニーズを始めとする、子育て世帯のニーズに対して計画的に提供体制を整備するため、子育て世帯に対するニーズ調査・把握を行い幼児期の教育・保育や子育て支援の需給計画を定めたものが「子ども・子育て支援事業計画」です。

令和2年から6年の5年間を計画期間とし、調査時点での利用状況に加えて、今後の利用希望も踏まえた「量の見込み」と、それに対する受け皿の「確保の内容」を年次計画で取りまとめています。



※子ども・子育て支援事業計画で定めている需給計画の内容

- | |
|--|
| ①満3歳以上の子どもの幼児期の教育ニーズの「量の見込み」とその受け皿の「確保の内容」
(利用区分=1号認定 利用施設=幼稚園、認定こども園) |
| ②満3歳以上の子どもの保育ニーズの「量の見込み」とその受け皿の「確保の内容」
(利用区分=2号認定 利用施設=保育所、認定こども園) |
| ③満3歳未満の子どもの保育ニーズの「量の見込み」とその受け皿の「確保の内容」
(利用区分=3号認定 利用施設=保育所、認定こども園、小規模保育事業等) |
| ④地域子ども子育て支援事業の「量の見込み」とその受け皿の「確保の内容」
(子育て支援センター、一時預かり事業、病児・病後児保育事業、放課後児童クラブ等の13事業) |

3 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況（令和3年度の状況）

子ども・子育て支援事業計画は、各年度において施策の実施状況について点検・評価し、その結果を公表することが定められています。令和3年度の状況については次のとおりです。

- 令和3年度の幼児期の教育・保育の「量の見込み」と「確保の内容」（全市）
 - ・ 量の見込みは、教育ニーズで実績値が計画値を若干上回り、保育ニーズでは3歳未満の実績値が下回った。特に、0歳の保育ニーズが計画値を大きく下回っている。
 - ・ 確保の内容の利用定員については、前年中に整備ができた保育の受け皿増は105人分であり、計画値に対する実績値は3歳以上の保育が93.7%、3歳未満の保育は98.9%の達成率であった。
 - ・ 利用申込数に対する利用児童数については、3歳以上の保育が2,064人に対して2,058人で不足が6人、入所決定率は99.7%、3歳未満の保育が1,379人に対して1,301人で不足が78人、入所決定率は94.3%となっている。

※小田原市子ども・子育て支援事業計画の計画値と実績値（全市・令和3年4月1日時点）

		教育利用 (1号： 幼稚園等)	3歳以上保育 (2号： 保育所等)	3歳未満保育 (3号：保育所、小規模等)		
				0歳	1・2歳	小計
量の見込み	計画（利用希望に基づく需要量）	1,511人	2,062人	255人	1,171人	1,426人
	実績（利用申込数）	1,541人	2,064人	191人	1,188人	1,379人
	実績／計画	102.0%	100.1%	74.9%	101.5%	96.7%
確保の内容	計画（利用定員）	2,518人	2,258人	290人	1,175人	1,465人
	実績（利用定員）	2,358人	2,116人	295人	1,154人	1,449人
	実績／計画	93.6%	93.7%	101.7%	98.2%	98.9%
	実績（利用児童数）	1,541人	2,058人	180人	1,121人	1,301人
	実績（利用児童数）／実績（利用定員）	65.4%	97.3%	61.0%	97.1%	89.8%
過不足	利用児童数－利用申込数	0人	△6人	△11人	△67人	△78人
	利用児童数／利用申込数	100%	99.7%	94.2%	94.4%	94.3%

※小田原市の待機児童対策の取組み状況（保育所定員増の推移）

	H. 27	H. 28	H. 29	H. 30	H. 31	R. 2	R. 3	R. 4
定員増数	148人	12人	61人	73人	47人	64人	105人	3人
内容	保育所3 小規模2 新設	認定こども園1 新設	小規模4 新設	分園2 小規模1 新設 既存園 定員増	小規模3 小規模2 新設	保育所1 小規模1 新設	分園1 認定こども園1 小規模1 新設 既存園 定員増	既存園 定員増

4 子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

子ども・子育て支援事業計画は、令和3年4月1日時点の「量の見込み」が、実際のニーズと比べて10%以上の大きな乖離がある場合には、計画期間の中間年を目安に計画の見直しを行うこととされています。

本市の計画については、次のような理由から「量の見込み」「確保の内容」の数値は現状のまま、見直しは行わないこととします。

(1) 「量の見込み」の数値について

本市の令和3年4月1日時点の「量の見込み」の実績値と計画値を比較すると、教育利用（1号）については計画に対し実績が102.0%、3歳以上の保育利用（2号）では100.1%、0歳の保育利用（3号）では74.9%、1・2歳の保育利用（3号）では101.5%、となっています。

0歳児の保育利用だけが大きく乖離している状況ですが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により0歳児の数自体が前年より113人（R2:1,165人→R3:1,052人）減少したことによるところが大きいと考えており、加えて保育所等へ預けることを控える世帯が一時的に生じたことが要因と考えられます。前年度の計画値に対する実績値が94.2%（計画値241人に対して実績値227人）であり、直近では計画値の乖離も少ないことから、今回の要因は長期に亘るトレンドではなく、一時的な要因と捉えることが妥当であるため、「量の見込み」の数値は現状のまま使用することとします。

(2) 「確保の内容」の見直しの必要性について

「確保の内容」は、令和3年度時点において、0歳児の受け皿分を除き、計画値よりも実績値が下回っていることから、特にニーズの大きい1・2歳児の分を中心に、「量の見込み」に対応した受け皿を用意する必要があります。

このため、「確保の内容」における計画値の見直しは行いませんが、計画策定時点からの状況の変化もあるため、これらも適切に考慮した上で、必要な受け皿の確保に向けた取組みを進めてまいります。

※「確保の内容」の見直しにあたっての考え方

①	引き続きニーズの増加が見込まれる、1歳及び2歳の低年齢児に対する保育の受け皿確保を中心に進める。
②	今後の児童数やニーズの動向等を見据えつつ、既存施設を最大限有効に活用するため、既存園舎の建替えに併せた定員増などの取組みのほか、定員構成の最適化により必要な受け皿を確保する。
③	幼稚園における「預かり保育」の充実（時間の拡充、長期休業中の開設等）などにより、幼稚園における保育ニーズへの対応を進めていく。
④	利用者支援事業の活用（保育コンシェルジュによる相談・案内等）により、利用希望者のニーズと状況を的確に把握し、希望者にとって適当な施設利用に繋げる。